

先週から引き続きの、尾島先生から学んだお話。

図工の学習などで、「もう終わった」と言って、取組が進まない低学年の子供さんをよく見かけます。そんなときにあるベテランの先生は、微笑みながらだまってその子の手をつないで、ほかの子供たちの取組の様子を見て回ったそうです。じっくり見て回った後に、「何か真似してみたいと思ったことあったかな」と問うと、「うん！」と言って取り組み始めたそうです。でも、そのままさせたりはしません。真似してみたいと思った子のところに行って「すごくいいなあと思ったから参考にしたいですか？」と聞いてくることを促したそうです。

このベテランの先生、すごいなと思いました。まずは、自分で気づかせて、自己決定させている。そして、ただ真似するだけではなくて本人の了承を取り付けている。（まさに著作権教育！）真似された子も自信になりますよね。

こういったことを「他者参照」というのだそうです。子供たちはどうしていいかわからないときにお友達がどんな取組をしているかがわかれば「こうすればいいんだ」と納得して取り組むことができます。ICTではそれが容易にできるんです。

他者参照。今後の研究でもキーワードとしていけそうです。